

## VII 参考資料

### 生活満足度の増減に関する要因分解

#### ○性別

単位：％

生活満足度の増減率(計)	生活満足度の変動寄与			構成比の変動寄与
	男性	女性	無回答	
16.46	6.96	9.40	-	0.11

#### ○年齢

単位：％

生活満足度の増減率(計)	生活満足度の変動寄与				
	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代
16.46	0.96	2.52	2.79	2.10	3.37
生活満足度の変動寄与(つづき)					構成比の変動寄与
60歳代					
	3.19	1.44	-	0.10	

#### ○職業

単位：％

生活満足度の増減率(計)	生活満足度の変動寄与				
	事務職	販売職	管理職	専門的・技術的職業	サービス職
16.46	1.77	0.88	0.41	2.39	1.36
生活満足度の変動寄与(つづき)					構成比の変動寄与
現業職					
	1.06	0.38	1.80	3.81	1.30
生活満足度の変動寄与(つづき)					構成比の変動寄与
無職					
	0.54	0.32	0.21	0.22	

#### ○個人年収

単位：％

生活満足度の増減率(計)	生活満足度の変動寄与				
	100万円未満	100～200万円未満	200～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満
16.46	3.14	2.66	5.52	3.66	-0.03
生活満足度の変動寄与(つづき)					構成比の変動寄与
800～1,000万円未満					
	0.24	0.45	-0.04	-0.06	0.59
生活満足度の変動寄与(つづき)					構成比の変動寄与
無職					
	0.54	0.32	0.21	0.22	

#### ○世帯年収

単位：％

生活満足度の増減率(計)	生活満足度の変動寄与				
	100～200万円未満	200～400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1,000万円未満
16.46	1.11	4.69	3.52	3.43	1.45
生活満足度の変動寄与(つづき)					構成比の変動寄与
1,000～1,200万円未満					
	0.41	0.37	-0.17	1.56	0.09

#### ○学歴

単位：％

生活満足度の増減率(計)	生活満足度の変動寄与				
	小中学校	高等学校	専修学校・各種学校	短期大学	大学
16.46	2.46	6.36	2.85	1.52	2.08
生活満足度の変動寄与(つづき)					構成比の変動寄与
大学院					
	0.29	0.04	0.29	0.57	

#### ○結婚及び配偶者の有無

単位：％

生活満足度の増減率(計)	生活満足度の変動寄与				構成比の変動寄与
	未婚	既婚・配偶者あり	既婚・配偶者離死別	無回答	
16.46	3.12	11.69	1.72	-0.03	-0.04

○子どもの有無と人数

単位：％

生活満足度の増減率（計）	生活満足度の変動寄与				
	1人	2人	3人	4人以上	いない
16.46	2.25	7.29	1.77	0.66	4.02
	生活満足度の変動寄与(つづき)	構成比の変動寄与			
	無回答		0.28	0.18	

○家族構成

単位：％

生活満足度の増減率（計）	生活満足度の変動寄与				
	単身	夫婦だけ	夫婦と子ども	夫婦と子どもと親	夫婦と子どもと親と夫婦の兄弟姉妹
16.46	0.93	2.97	6.09	2.84	0.40
	生活満足度の変動寄与(つづき)		構成比の変動寄与		
	その他	無回答		2.95	0.58

○居住地（3大都市圏／地方圏）

単位：％

生活満足度の増減率（計）	生活満足度の変動寄与			構成比の変動寄与
	3大都市圏	地方圏	無回答	
16.46	7.88	8.47	-	0.12

注：「3大都市圏」及び「地方圏」は以下の分類である。

- ・ 3大都市圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 地方圏：上記以外の道県

○住まい

単位：％

生活満足度の増減率（計）	生活満足度の変動寄与								
	持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	民間の借家	給与住宅	公営の借家				
16.46	12.17	0.97	2.17	0.02	0.47				
	生活満足度の変動寄与(つづき)				構成比の変動寄与				
	借間、下宿	住み込み、寄宿舍、 独身寮	その他	無回答		0.04	0.13	0.31	0.05

## 付注 生活満足度の増減に関する要因分解

生活全般について「満足している」（「満足している」＋「まあ満足している」と回答した人の割合（以下、「生活満足度」とする）の2005年度から2008年度にかけての増減率を、各グループの生活満足度の変化による部分と、グループの構成比の変化による部分とに、以下の考え方に従い近似的に分解した。

全体の生活満足度を  $I$  とすると、

$$I = \alpha_1 I_1 + \alpha_2 I_2 + \alpha_3 I_3 + \alpha_4 I_4 + (1 - \alpha_1 - \alpha_2 - \alpha_3 - \alpha_4) I_5$$

ただし、 $I_j$  は第  $j$  グループの生活満足度、 $\alpha_j$  は第  $j$  グループの全体に占める割合を表す。これを全微分すると、

$$dI = (I_1 - I_5) d\alpha_1 + (I_2 - I_5) d\alpha_2 + (I_3 - I_5) d\alpha_3 + (I_4 - I_5) d\alpha_4 + \alpha_1 dI_1 + \alpha_2 dI_2 + \alpha_3 dI_3 + \alpha_4 dI_4 + (1 - \alpha_1 - \alpha_2 - \alpha_3 - \alpha_4) dI_5$$

これに基づいて2005年度から2008年度までの変化を以下のように分解する。

$$\Delta I_{2008-2005} = \underbrace{\Delta I_{2008-2005} \mid \Delta \alpha_1 = \Delta \alpha_2 = \Delta \alpha_3 = \Delta \alpha_4 = 0}_{\text{(生活満足度の変動寄与)}} + \underbrace{\Delta I_{2008-2005} \mid \Delta I_1 = \Delta I_2 = \Delta I_3 = \Delta I_4 = 0}_{\text{(構成比の変動寄与)}} + T$$

(生活満足度の変動寄与)

(構成比の変動寄与)

ただし、 $T$  は誤差を表す。各  $I$ 、 $\alpha$  は2005年度と2008年度の平均値で評価した。